第２学年５組　　道徳指導案

１　**主題名**　　思いやりの大切さ〔内容項目Ｂ－（６）：思いやり〕　（２時間完了）
〈資料名　「天ぷらそば」　出典：心つないで（教育出版）〉

２　ねらい

自身の経験をもとに老紳士と老婦人の状況を想像し、二人の気持ちが少しでも軽くなるような心づかいをする岩崎さん。その対応ぶりは、人は互いに支え合っていくものであるということを具現化したものである。そして、思いやりとは相手の立場を想像し気持ちをくみとることであるということをその言動で示してくれる岩崎さんの姿を通して、他の人々に対して感謝と思いやりの心で接しようとする道徳的心情を高める。

３　ねらいとする道徳的価値

現在の日本は高齢化社会である。介護や孤独死、孤立死といった高齢者の問題が新聞やニュースなどで大きく取り上げられている。また、核家族化や少子化などの社会の変化に伴って人間関係は希薄になり、生徒たちは自己肯定感や思いやりの気持ちを体験する機会が減少している。本校の生徒たちの家庭状況も同様であり、年を取っているということだけでどこかお年寄りを異質な遠い存在として認識しているのかもしれない。しかし、私たちが生きていくときに、自分とは異なるさまざまな人と付き合うことは当たり前のことである。生まれた場所や時代、環境が違えば考え方や感じ方はそれぞれ異なる。だからこそ、他者に対する思いやりや優しさは人が生きていく上で欠かすことのできないものである。

優しさや思いやりというものは、特別なものではない。常にそれを意識して行動しているわけでもない。しかし、時に目の前の現実に対してまずは、否定せずに考えてみる。「どうしてかな。」「なぜだろう。」と。そして、相手を受け入れる、そうしたことを意識してみることが大切である。本資料はどこにでもありそうなトラブルが書かれている。そのトラブルに柔軟に対応する岩崎さんの行動を通して、人を思いやることのすばらしさを感じ、それを実践したいと思う意識を高めていきたい。

４　ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

（１）学級について

本学級の生徒は、全体的に穏やかに学校生活を送ることができている。人助けをしたり、困っている仲間がいたら手を差し伸べたりという姿をしばしば見かける。しかし、思いやりをかける相手が自分の仲のよい友達だったり、部活の仲間だったりと限られてしまっている。自分に関係ない人と決めつけた相手に対しては、関心すらもてない生徒もいる。また、祖父母と同居している生徒の数も少なく、普段お年寄りと接する機会をもたない生徒が多く見られる。そのせいか、老人に対してどこか特別なものという意識をもっている。本時の授業で、年を経ることは人生の先輩として尊敬すべき対象であって、決して疎ましい存在ではないということに気づかせたい。さらに相手の行動の裏にある状況や思いを想像させたうえで、相手のためにどう行動していったらいいかを考えさせ、誰に対しても思いやりの心をもって接することの大切さを気づかせたい。

（２）抽出生徒について

①抽出生徒Ａについて

Ａは自分と親しい子に対しては、思いやりの心をもって接することができるが、自分とはあまりかかわりがない子や、自分に利益がないことに対しては、無関心である。いつも自分の立場を優先させて行動することが多く、相手がどう思うのかというところまで考えて行動することができない。本時では、カヨちゃんと岩崎さんの老婦人に対する行動に対する自分の考えを発表させた上で、どう行動することがよいのかを問い返すことで、他者の立場に立って考え、行動することの大切さを気づかせたい。

②抽出生徒Ｂについて

Ｂは学級の中では、日直が仕事を忘れていたりすると、そっと手伝うなどの気配りができる生徒である。Ｂは、祖父母と同居しており、本資料のような状況を想像がしやすいと考える。普段の授業ではあまり発言をしないので、本時では、祖父母との交流の中で互いに支え合っている経験を意図的に指名し発表させることで、Ｂの思いを学級に共有させるとともに、Ｂには自分の意見が他者に影響を与えることができるということに気づき、今後の授業の中で積極的に発言できるようにしたい。

5　資料について

（1）資料の概要

そば屋を舞台に、一人の老紳士をめぐり、正義感、責任感の強いカヨちゃんとそば屋の主人の岩崎さんの言動を通して真の優しさを考える作品である。 そば屋の更科庵では老紳士が無銭飲食をする。２週間後、その老紳士が夫婦連れで再びそば屋にやってくる。以前のことは何もなかったかのようにおいしそうに天ぷらそばを食べる老紳士。そんな様子に、怒りがおさまらないアルバイトのカヨちゃんは、会計時にお代を払おうとした妻の老婦人に対して、横柄な態度で先日の天ぷらそば代を請求する。お代を払い終えた老婦人は、主人の岩崎さんに老紳士が最近もの忘れがひどくなり、こうした失態をしてしまうと、謝罪する。来店した際にはお金をもっているか遠慮なく聞いてほしいと申し訳なさそうに言う老婦人に対し、岩崎さんはツケでいいからまた来店してほしいと伝える。老婦人が帰った後、納得のいかないカヨちゃんに、岩崎さんは自分の両親について話をする。岩崎さんの父親も同じようにもの忘れがひどくなり、地域の方々に迷惑をかけていたこと。そしてその後を母親が謝って回っていたこと。最後は岩崎さんの「みんな、……お互いさまなんだよ。」という一言で作品はしめられている。

（2）「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

①資料との対話をさせるための手だて

本資料は文章量が多く、範読でも１５分かかる。そこで２時間完了でじっくりと資料と向き合う時間を確保し、登場人物の細かな描写やところどころに描かれる岩崎さんの冷静な洞察、感情に注目することで、登場人物の心情を想像しやすくする。また老婦人への異なる対応をするカヨちゃんと岩崎さん二人の心情に深く迫るために、前半と後半を分けて提示する。前半は主にカヨちゃんの人となりや立場をおさえた上で、老婦人にお金を請求したカヨちゃんの正義感にスポットをあてる。後半は岩崎さんの老婦人への言動を取り上げ、他人の立場に立って行動することの大切さを考えさせる。また、黒板に登場人物の人となりや言動を図式化することをより、読み取りが苦手な生徒のために視覚的なサポートをする。

②他者との対話、自己内対話をさせるための手だて

お金を請求したカヨちゃんとツケにした岩崎さんの行動を対比させるために、両者の行動に対してどう思うか肯定的、否定的の二択で自分の考えをもたせる。どちらの行動にも言い分があり、肯定的な意見に集中すると考えられる。そこで、老婦人に対してどう対応することがよかったのかを問い返すことで、安易に無銭飲食をとがめることをせず、老紳士や老婦人の立場に立って二人を思いやる岩崎さんの優しさに気づかせたい。

また、文章で自分の思いがまとめられない生徒のために二択にすることで、意見を出しやすくする。さらに、二人の行動に対する意見が対比できるようにしたり、相互指名などで発表がスムーズに進めたりできるようにするために、自分の立場がどちらか黒板にマグネットを貼って明確にする。

6　板書計画（次々ページ参照）

7　構想図（２時間完了）

「天ぷらそば」前半を読んで、登場人物の気持ちを考えよう。①

老紳士はなぜ一度食い逃げをした更科庵にきたのだろう。	食い逃げするなんて悪い人だ。カヨちゃんが怒るのがよくわかる。	岩崎さんは、せっかく信用した老紳士に裏切られてかわいそう。

岩崎さんの思いを考え、思いやりのすばらしさを感じよう。②本時

岩崎さんのように、優しさをもって人に接したい。	相手がどんな状況なのかをまずは考えてから行動したいと思う。	岩崎さんは、相手のことを思いやってすごいと思った。

人は互いに支え合っていくものであることや、思いやりとは相手の立場を想像し気持ちをくみとることであるということを考えることを通して、他の人々に対して感謝と思いやりの心で接しようとする道徳的心情を高める姿。

８　本時の展開　（本時２／２）

（１）ねらい

　思いやりとは相手の立場や状況をふまえ、気持ちをくみとることであるということに気づき、他の人々に対して感謝と思いやりの心で接しようとする心を育てる。

（２）授業過程

時間	学　習　活　動	※教師支援　☆評価
1 3	○登場人物と状況の確認をする。 老婦人にお代を請求したカヨちゃんをどう思うか。 〈肯定的〉 正しいことをはっきり言えて立派。食い逃げは犯罪。 真面目な人だと思う。食べたなら、お金を払うのは当然だから。 商売が成り立たなくなる。正しいことが言える正義感をもっている。(①) ⇔ 〈否定的〉 岩崎さんが首を横に振ったのに言ってしまったのはよくない。 お金を請求するのはいいけど、もっと別の言い方があるのでは。 老紳士の様子から、なぜそんなことをしたのか考えてから行動すべき。	※登場人物を整理し、立場を明確にすることで、カヨちゃんや岩崎さんの気持ちを考えやすくする。 ※たくさんの意見が出るように、相互指名をさせる。板書でそれぞれの意見をまとめることで、視覚的に意見を整理させる。 **※カヨちゃんの横柄な態度に対する否定的な意見が多く出たときは、カヨちゃんの人となりや請求した理由を問い返すことで、カヨちゃんの気持ちに寄り添うことができるようにする。** **（①　E：切り返す）** ※カヨちゃんの正義感を取り上げた上で、岩崎さんの行動や考えに触れさせることで、後半の中心発問での話し合いにつなげられるようにする。
１５	○資料後半の範読を聞く。	
２０	「これからはツケにさせていただきますから。」と言った岩崎さんをどう思うか。 ○話し合う。 優しすぎる。毎回お金をもたせるようにしてもらえばいい。 気軽に人を信用してしまって、お人よしすぎる。せめて住所は聞くべきだ。 いつでも天ぷらそばを食べてほしいという思いが込められていると思う。 お父さんのことを思い出すと相手の気持ちがわかったんだろうな。 本当にいい人だと思う。自分だったらこんなことは言えない。 人を思いやることができる優しい人だと思う。(②)	**※お金を請求したカヨちゃんとツケにした岩崎さんの行動を対比させる。お金を請求するカヨちゃんの行動を止めようとする岩崎さんの様子を取り上げ、その時の心情を問い返すことで、岩崎さんが老紳士の状況を予測して行動していることを指摘し、人を思いやるということは他者の立場になって気持ちや状況を想像するということであることに気づかせる。** **（②C：気づかせる）** ☆岩崎さんの人を思いやる気持ちを考えることができたか。(発言・ワークシート)

35	「みんな、……〇〇〇だよ。」にあなたならどんな言葉がふさわしいと思うか。 ・つらい思いをしているんだよ。 ・いつかは年を取るんだよ。 ・迷惑をかけながら生きるんだよ。 ・助け合って生きていくんだよ。 ・許し合うことが大切なんだよ。 ・支え合って生きていくんだよ。(③)	※机間指導で生徒の意見を把握しておき、「支え合って生きている」などの本資料の意図をくんだ意見を、意図的に指名する。 **※発表した後、「なぜその言葉を入れたのか」と補助発問をし、理由を答えさせることで、言葉が浮かばなかった生徒にも考えを想像しやすくするようにする。** **(③　C：気づかせる)**
45	○振り返りを記入する。 ○振り返りを発表する。 「人間は助け合っていかなければいけない」や「相手の気持ちを考えて行動できるようになる」という感想や意見を発表させることで、他者とのかかわり方を意識して生活しようという気持ちを高める。 人は互いに支え合っていくものであることや、思いやりとは相手の立場や状況をふまえ、気持ちをくみとることであるということに気づき、他の人々に対して感謝と思いやりの心で接しようとする気持ちを高める姿。	☆他の人に対して、感謝と思いやりの気持ちで接することの大切さを理解し、今後に生かしていこうと考えることができたか。 (発言、ワークシート)

授業の視点

① 発問１において、意見の違いを二択で分類して可視化したり、どちら側の意見かを氏名マグネットを貼り明確にしたりしたことは、議論を活性化させるうえで有効であったか。

② 中心発問に対する教師のコーディネート支援は、岩崎さんの気持ちを考え、ねらいに迫るうえで有効であったか。

板書計画

天ぷらそば

登場人物
岩崎さん　カヨちゃん
老紳士　老婦人

老婦人にお代を請求したカヨちゃんをどう思うか。

肯定的
・当然のことをしたまで。
・ちゃんと言えてえらい。
・正しいことをしたと思う。正義感。

否定的
・別の言い方があったのでは。
・岩崎さんがだめっていったのに。
・何か理由があるかもしれないのに。

「これからはツケにさせていただきますから。」と言った岩崎さんをどう思うか。
・毎回お金をもたせるようにした方がいい。
・お人よしすぎる。住所は聞くべき。
・天ぷらそばを食べてほしいという思い。
・お父さんのことを思い出すと相手の気持ちがわかったんだろう。
・本当にいい人。自分はこんなことは言えない。
・人を思いやることができる人。

「みんな……〇〇。」にあてはまる言葉を考えよう。
・いつかは年を取るんだよ。
・つらい思いをしているんだよ。
・助け合って生きていくんだよ。
・話し合うことが大切だよ。
・支え合って生きていくんだよ。